

# グルタチオン ② 適応症 ①

## ① 認知症

グルタチオン大量点滴は、認知症の歩行障害、意識障害、傾眠、せん妄、認知能力の低下に効果がある。とくに歩行障害は放置しておく、寝たきりにつながるため早急な対応が必要である。レビー小体型認知症をはじめとするさまざまな認知症にグルタチオン点滴が有効です。

たとえばアルツハイマー型認知症では、アミロイドβというタンパク質が脳に蓄積して神経を殺すと考えられていますが、そのアミロイドβがミトコンドリア内にも存在してチトクロムC酸化酵素の活性を停止させたり、ミトコンドリア内で活性酸素を発生させることが分かって来ています。

ミトコンドリアの中に入り込んだアミロイドβは、エネルギー代謝の働きを妨げ、活性酸素を増やしそれによってミトコンドリアの量も減らした結果、神経細胞死を招いて認知症を発症させるのだと考えられます。

## ② パーキンソン病

パーキンソン病をはじめとする神経変性疾患の歩行障害にグルタチオン点滴は著効を示す例がある。以下のような疾患の歩行障害も改善させる。

SCD	脊髄小脳変性症
MSD	多系統委縮症
ALS	筋萎縮性側索硬化症
DM	筋硬直性ジストロフィー

パーキンソン病は、脳の黒質と呼ばれる、ドーパミンを分泌する細胞で古くなったミトコンドリアを除くことができなくなったことで起こる。古いミトコンドリアばかりになると、ミトコンドリアがはたらかなくなってエネルギーが作れなくなり、さらに活性酸素を放出しやすくなる。エネルギーが足りなくなり、活性酸素の害が高まると、神経細胞を殺してしまうことになる。

当院では上記疾患の歩行障害、記憶障害、意識障害などに対しグルタチオンやシチコリンなどの点滴を行って良好な結果を得ている。